

令和元年度 調布市立 石原小学校 学校評価報告書			様式1	
領域	自己評価結果の概要	学校関係者評価結果の概要	次年度への改善策	
学力向上	<p>○管理職による授業観察・指導、教員による交換授業や相互授業参観、校内研修会などを通して、授業力向上を進めた。</p> <p>○各教科の「石原スタンダード基礎編・応用編」を整備し、全校で共通理解した学習指導の取り組みを進めた。</p> <p>○「ノート・コンクール」を実施。充実したノートづくりに、児童の意欲の高まりがみられた。</p> <p>○特別支援教育にかかわる研修や、教員の専門分野を生かした研修、週末の30秒イングリッシュなどを行い、全体のスキルアップが進んだ。</p> <p>○「富士見子ども連絡会」の協力による「九九クリニック」を、対象を2・3年生に広げて実施した。また、新たな企画として、3年生対象の「ABCクラス」を実施することができた。</p> <p>○児童・生徒の学力向上を図るための調査において、AB層5%増を目標に掲げたが、届かなかった。</p>	<p>○学校関係者評価アンケート(保護者)において、「子供たちの学習意欲を向上させるための授業の改善や工夫がなされ、充実した授業が日々展開されていると思いますか。」87%という肯定的評価で、目標として掲げた85%以上を達成できた。学校の授業改善の取り組みが評価されたと考えられる。</p>	<p>○新学習指導要領の趣旨を授業に反映させるべく、校内研究のテーマを新たにし、授業改善・授業力向上に取り組む。</p> <p>○外国語活動・外国語科やプログラミング教育についての理解を深め、指導計画・授業プランの作成・実施・修正を進める。</p> <p>○地域との教育力を活用し、補習等を充実させる。</p>	A
	<p>○調布市研究推進校として、外国語科・外国語活動の研究を進め、研究発表会を開催して市内外に成果を発表することができた。参加者から、高い評価を得ることができた。</p> <p>○全学年の研究授業を通して授業の課題を明らかにし、外国語科・外国語活動における「主体的・対話的で深い学び」への研究を進めた。</p> <p>○外国語科・外国語活動における授業の基本スタイル「石原スタイル」を確立した。</p> <p>○ワークショップ型協議を用いることで、若手を含め全員参加の研究協議を進めることができた。</p>	<p>○学校関係者評価アンケート(中・高学年児童)において、「算数少数人の授業は、自分に合ったはやさで学習を進められていますか。」中学年84%、高学年88%「前よりも、漢字の読み書きや計算力が上がっていますか。」中学年87%、高学年92%という肯定的回答であった。児童が、自分のペースで学習し、成果を感じていることがうかがえる。</p>		
健全育成	<p>○生活指導全体会、生活指導夕会などにより、児童の状況と指導の共通理解を図った。守るべきルールを徹底することができた。</p> <p>○児童や学級の課題については、学級・学年を隔てず、全校体制で支援体制を構築し対処することができた。</p> <p>○年間を通したあいさつ運動など、本校伝統の取り組みを続けることで、校内の規律が守られるとともに、異学年と親しく交流できる心や愛校心を育むことができた。</p> <p>○特別支援教育については校内委員会が適切に機能し、細やかな対応ができた。校内通級担当教員による通常級での出張授業を実施した。</p> <p>○日々の生活や行事における高学年の自覚を育てることにより、下級生がそれを見習う校風が育っている。</p>	<p>○学校関係者評価アンケート(保護者)において、「子どもたちは『学校のきまり』を理解し、守ろうと意識して生活できている。」への肯定的評価は85%であり、概ね信頼を得ていると言える。目標に掲げた85%を達成できた。</p> <p>○学校関係者評価アンケート(中・高学年児童)において、「学校のきまりや約束は、学校でも学校以外でも守っていますか。」中学年88%、高学年86%「学校では、だれにでも自分から進んであいさつしていますか。」中学年77%、高学年84%であった。子どもたちが、きまりを意識して生活している様子がうかがえた。あいさつに関する肯定的回答は前年を5ポイントほど下回っている。あいさつに関する自由記述を見ると、石原小の子どもたちのあいさつを自慢に思う意見と、まだ十分でないという意見と分かれるところであった。</p>	<p>○組織的な指導・対応、全校共通の指導を行うことで、安全・安心の徹底を図る。</p> <p>・学年会、生活指導部、いじめ防止対策委員会等、臨機に開催する。</p> <p>・実態把握のために、児童アンケートを実施する。</p> <p>・年度はじめや学期はじめ等に、校内・校外のきまり、アレルギー対応、非常時の体制等を確認する。</p> <p>○特別の教科「道徳」の授業や体験活動の充実を図り、命と心の教育の充実を図る。</p>	B
	<p>【いじめの根絶】アンケート調査や職員夕会での情報交換により情報の収集・状況把握を行った。いじめや不登校の萌芽に対しては、いじめ防止対策委員会などにより、速やかかつ組織的に対応し、深刻化させなかった。</p> <p>【アレルギー対応】シミュレーション研修や職員朝会などで教職員の知識を深め、学期はじめなど折々に確認事項を全体で徹底した。適切に実施し、事故がなかった。</p> <p>【防災教育】避難訓練を適切に実施し、避難時の適切な態度が育ってきている。</p> <p>【登下校の安全確保】地域のふじみパトロール隊・PTAと円滑な連携を図り、重大な交通事故・事件はなかった。</p>	<p>○学校関係者評価アンケート(保護者)において、「学校は、子どもたちの心や体の健康や安全に対し十分に配慮しながら、日々の教育活動に取り組んでいると思いますか。」89%という肯定的評価で、目標として掲げた85%以上を達成できた。</p> <p>○学校関係者評価アンケート(中・高学年児童)において、「学校は毎日楽しいですか。」中学年77%、高学年93%「友だちをいじめたり、友だちにいじめられたりしないで生活していますか。」中学年76%、高学年94%という肯定的評価であった。これらの項目については、さらに高く、100%に近い状況を目指す必要がある。引き続き、子どもたちを細やかに見守っていく。</p>	<p>○年間を通じ、全学年が輪番で「あいさつ運動」を展開する。</p> <p>○ふじみパトロール隊・富士見子ども連絡会・PTA等、保護者や地域諸団体と連携して児童の安全を確保する。</p>	
健康・体づくり	<p>○オリンピック・パラリンピック教育推進校の取組</p> <p>①アスリートを招く出前授業により、児童の競技に対する関心が高まった。また、「よさこい」の体験学習などを通じて、日本文化を身近に感じることができた。</p> <p>②国際理解教育、障害理解教育等を進め、児童の関心・意欲を高めた(モンゴルの馬頭琴演奏鑑賞、認知症サポート教室、ユニバーサルデザインの学習等)</p> <p>③マラソン週間・大会、大々的な週間を設けた。運動に対する児童の意欲を高めることができた。</p> <p>④オリンピック・パラリンピック算数ドリル学習会を実施。メディアにも取り上げられ、児童や保護者・地域の関心を高めた。</p> <p>○健康に対する正しい知識や態度を伸長させる活動に取り組んだ。</p> <p>・校内放送等を通じて、高学年委員会活動による手洗い・うがい・の励行等を行うことができた。</p> <p>・学校歯科医と連携した事業として、3年生で2週間の歯みがき指導を実施することができた。</p>	<p>○学校関係者評価アンケート(保護者)において、「たくましい心や体をつくるための運動や遊び等の取組は十分だと思いますか。」82%という肯定的評価で、目標として掲げた85%をやや下回った。</p> <p>○学校関係者評価アンケート(中・高学年児童)において、「学校では、自分から進んで運動や遊びをしていますか。」中学年85%、高学年78%という肯定的評価で、昨年度より5ポイントほど下がっている。災害や感染症流行等の影響も考えられる。高学年へ向け、運動や外遊びから遠ざかる傾向が見られる。運動への意欲関心を高めていく必要がある。</p>	<p>○オリンピック・パラリンピック教育の全体計画・年間計画を作成し、計画的に取り組む。</p> <p>・児童の体力・健康増進の取組</p> <p>・オリンピック・パラリンピックの意義を理解する取組</p> <p>・国際理解や障害者理解に関する取組</p> <p>○オリンピック・パラリンピックに接する活動を取り入れる。</p> <p>・パラリンピック車いすバスケット・ボールの全校観戦。</p> <p>・聖火リレーの沿道応援。</p> <p>○体育授業の充実や、マラソン週間・大会等の推進を通して、児童の基礎体力向上を図る。</p> <p>○歯みがき指導、薬物乱用・喫煙防止指導、ガン教育をはじめ、自分の健康を見つめる活動を通して、児童の健康に対する意識を高める。</p>	B
	<p>○「富士見子ども連絡会」での情報交換により、児童の安全確保と健全育成を進めることができた。</p> <p>○各学年において保護者・地域の方をゲストティーチャーとして迎える授業を行い、地域人材の協力を得ることができた。</p> <p>○毎日の登下校や校外学習などにおいて、ふじみパトロール隊や保護者の協力により安全を確保し、学習活動を充実させることができた。</p> <p>○月1回、パトロール会議(学校・PTA・ふじみパトロール隊・ワンワンパトロール・健全育成)を開催し、児童の安全確保のための情報交換・話し合いを行い、大きな事故や事件なく過ごすことができた。</p>	<p>○学校関係者評価アンケート(保護者)において、「保護者や地域に対して積極的な情報を提供し、開かれた学校作りに努めている。」89%「教員は、保護者や地域に対して、誠実な態度をとっていますか。」91%という肯定的評価で、目標として掲げた90%をほぼ達成できた。</p>	<p>○「富士見子ども連絡会」との連携協力を進め、児童の安全確保、生活の見守り、学習支援等を充実させていく。</p> <p>○PTA、ふじみパトロール隊等との連携を強め、日常の交通安全指導、見守り、地域パトロール等を強化する。</p> <p>○地区協議会と連携し、避難所運営訓練等を実施する。</p> <p>○学校HPの内容の精選と更新の効率化を図り、学校の発信力を高める。</p>	C
特色ある教育活動	<p>○算数習熟度別指導では、グループの構成人数に変化をつけたり、習熟の度合いによって問題や展開を変えるなどの工夫をして、児童の実態に対応した授業を進めることができた。</p> <p>○日本語指導は言葉や教科の学習にとどまらず、じっくりと話を聞いてもらえるカウンセリング効果により、児童に自信をもたせることができた。</p> <p>○校内通級教室(いしむら教室)の教員による、通常級への出前授業を実施し、ソーシャル・スキル・トレーニングの手法などを通常級の子どもたちや担任に広げる取り組みを行った。</p>	<p>○学校関係者評価アンケート(中・高学年児童)において、「先生は、自分の話をよく聞いてくれますか。」中学年81%、高学年94%「先生は、がんばったことを認めてくれますか。」中学年81%、高学年93%という肯定的評価であった。子どもたちが、自分は尊重され認められていると感じていることがうかがえる。自己有用感をさらに育んでいきたい。</p>	<p>○いしむら教室の授業改善を進める。</p> <p>○全校児童へ向けた校内通級教室の説明や、いしむら教室担当教員による通常級でのSST指導などにより、通常級と通級との連携、児童の相互理解を進める。</p> <p>○校内委員会を十分に機能させ、学級での支援・通級での支援・個別指導による支援などを効率的にコントロールしていく。</p> <p>○学級の指導との相乗効果を図る。</p>	B
	<p>○文化文芸活動や体験活動を多く実施した。</p> <p>・絵本挿絵による画家による絵画指導、アンサンブルバンド、馬頭琴演奏、よさこい舞踏指導等々を行い、児童に感動や驚きを与えることができた。</p> <p>・お年寄りとの交流活動、認知症サポートプログラム、特別支援学校との交流等、人とかかわりを通して心育てる活動を多く取り入れた。児童の感想では、他者に対するやさしい気持ちや、他者への感謝の気持ちが見られた。</p>	<p>○学校関係者評価アンケート(保護者)において、「学校は、子供たちが人とかかわりを深めたり、社会性を育てるための教育に十分取り組んでいると思いますか。」83%という肯定的評価であった。児童の読書への関心はあまり伸びていない、さらなる取組が必要である。学校評議員会・学校関係者評価委員会において、文化的行事について好評価をいただいている。</p>	<p>○読書活動のさらなる充実を目指し、読書週間の取組をさらに工夫改善していく。また、授業での読書指導を細やかに行う。</p> <p>○オリンピック・パラリンピック教育や外国語活動とも関連させ、様々な文化文芸活動体験により、愛国心や外国文化への正しい理解、国際理解や平和について考える機会を設けていく。</p>	